



上村さん(左)の説明を聞く生徒たち

地元企業の

魅力知って

22社招き校内説明会

桜ヶ丘高

周南市の桜ヶ丘高(辻岡敦校長)は十三日、地元企業二十二社の採用担当者を招いて企業説明会「産業と職業を知る」を開き、一年生約二百人が各社の仕事内容などを学んだ。

これは企業の内容を知ること地元への就職を促し、早期離職の要因にもなる雇用のミスマッチ防止にもつなげようと開いたもの。各企業が教室ごとにブースを設け、生徒はそれぞれ希望する三社を巡った。こうしたブース形式での校内企業説明会は初めて。

この日は周南、下松、山口、柳井市の企業が下松市の山下工業所「まだ将来のことは決めていないので、じっくり仕事を聞きたい」と話していた。

一言進

ザ・グラマシー問題に注目

平穏な一年に思うこと

今年も残りわずかになつた。周南地区の重大ニュースがいつもテーマになるが、人それのテープカットまで木村市

移してほしいところだ。若手職員に地域に密着せよと号令を掛けたが、具体的な成功例を形にする段階だ。期待値が高い。

国井下松新市長は助走運

訪れ、そのうち周南市の山田石油は同校出身で生徒会長も務めていた藤井直弘課長代理(39)が参加。自動車用燃料売上高が県内一位であるほか宝石店や飲食店も運営していることなどを説明していた。

面などの立体形状を作り出す同社の打ち出し板金技術を、この技術で作ったチェロなども展示しながら説明。「今を大切に、未来のことも少しづつ考えてほしい」と助言もしていた。